例言

1　本書は雨水対策事業鍛治町雨水バイパス管築造工事（第２工区）に伴う事前事業として発掘調査を実施した、池南遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。

2　遺跡名称等　池南遺跡

3　遺跡の所在地　高崎市吉井町池字南１５００－２、１５０１－９

4　発掘調査から報告書刊行にいたる業務は、高崎市下水道局整備課の委託を受け、高崎市教育委員会が実施した。

5　調査主体者　高崎市教育委員会教育部　文化財保護課　埋蔵文化財担当

6　調査期間と整理期間

発掘期間　平成 27 年７月 20 日～平成 27 年９月 29 日

整理期間　平成 27 年８月１日～平成 29 年３月 31 日

7　発掘調査体制

高崎市教育委員会事務局

教育長　飯野眞幸

教育部長　上原正男

文化財保護課課長　　若狭徹

埋蔵文化財担当係長　角田真也

埋蔵文化財庶務担当　針井修（主査）　金井英一（主査［平成 28 年度］）加藤志津代（主査）

埋蔵文化財調査担当　滝沢匡（主査）　田村孝（行政嘱託員［文化財専門］）

埋蔵文化財整理担当　滝沢匡　小根澤雪絵（主任学芸員）

飯塚光生（行政嘱託員［文化財専門］）

8　本書の編集・執筆は飯塚が行った。

9　委託業務　調査・整理作業で実施した委託業務は下記の通り。

・遺構平面写真測量・遺構断面写真測量を株式会社シン技術コンサルに委託した。

・遺構の空中写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託した。

10　遺構写真の撮影は、滝沢・田村が行った。

11　遺構の断面実測および遺物出土図は、担当者の指示のもと作業員が実施した。

12　出土遺物の写真撮影・観察表作成は、飯塚が行った。

13　調査の記録類・出土品について

調査で得られた各種原図や写真・出土品は高崎市教育委員会が管理し、足門文化財事務所で保管している。

凡例

1　挿図中の方位は、座標北を示す。座標は世界測地系を用いた。

2　遺構名称や番号は、原則発掘調査時に付したものを使用した。

3　遺構略号は、土坑（SK)・溝（SD)・不明遺構（SX）等を用い、出土品の注記もこれと同様に行った。

4　遺構図については、挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。

遺構平面図・断面図　1/60　溝跡断面図　1/80

遺構全体図　1/100

5　出土遺物については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。

土器・陶磁器類 1/3・1/4　　銭貨　1/1　大型石製品　1/4

6　火山噴出物にかかわる表記・略号は下記のとおり。

AS-A（浅間A軽石：1783〔天明３〕年）　As-B（浅間B軽石：1108〔嘉承３・天仁元年〕）

7　遺物観察表の法量中にある（ ）は、復元による推定値を示す。

目次

序文　例言　凡例　目次

第１章 発掘調査と遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第１節 発掘調査にいたる経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第２節 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第３節 周辺の遺跡と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第４節 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４頁

第５節 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４頁

第６節 遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５頁

第７節 遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９頁

（１）　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９頁

（２）　溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12頁

（３）　サブトレンチ・遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21頁

第２章 成果と問題点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23頁

第１節 縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23頁

第２節 奈良・平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23頁

第３節 中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23頁

第４節 近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23頁

第５節 上池館堀跡について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23頁

写真図版・抄録・奥付

第１章　発掘調査と遺跡の概要

第１節　発掘調査にいたる経緯

高崎市水道局（以下「水道局」）では、旧吉井町地内の雨水対策事業の一環として、平成26年度から平成28年までの３ヵ年で吉井鍛治町排水区雨水バイパス管工事を行う計画を立てた。平成27年度は、新設道路内への雨水幹線を計画した。平成27年１月、水道局と吉井支所建設課と工事について協議した結果、高崎市教育委員会文化財保護課（以下「文化財保護課」）へ工事予定地の埋蔵文化財について照会があった。文化財保護課では上池館周辺に立地し、周知の遺跡に登録される場所で、その保護措置が必要であると回答した。その後の協議では、確認調査を実施し遺構のあり方を把握した上で、遺跡の取り扱いについて再協議することとなった。水道局から試掘確認調査依頼があり、平成27年３月10日に、高崎市教育委員会が調査を行い、上池館に続く堀跡等を検出した。これを受けて、水道局が文化財保護法第94条第１項に基づく届け出を行い、高崎市教育委員会では、平成27年７月１日より調査に着手した。調査は排土置場を確保するため調査区を東西３区画（Ａ～Ｃ）に分け、はじめに調査区東側Ａ区の調査を行い、８月18日からＢ区・Ｃ区の調査を行った。９月29日に調査を終了した。現地調査終了後は、平成28年３月31日まで基礎整理作業を行った。

第２節　遺跡の立地と環境

旧吉井町の地形は、北側を安中市・旧高崎市に接し、東側から南側にかけて藤岡市と接し、西側は富岡市・甘楽町に隣接している。旧町域の中心を東西に鏑川が蛇行しながら緩やかに流れ、倉賀野で烏川と合流している。鏑川両岸には、河岸段丘か形成されている。烏川右岸は、多胡地区・入野地区の山地・丘陵があり、左岸の岩平地区・馬庭地区には富岡丘陵がある。また、多くの平坦部が烏川南側にある。

池南遺跡は旧吉井町域、鏑川右岸に位置している。鏑川は荒船山麓に源を発する西牧川・南牧川が小河川と合流しながら河川を形成している。本遺跡地は申田川・大沢川と鏑川の合流地点から900ｍ程下った場所にあり、鏑川右岸台地上に立地する。西側は烏川による浸食が進み、高低差約８～10ｍの崖になっている。

第３節　周辺の遺跡と歴史的環境

旧石器時代　折茂Ⅲ遺跡、多比良追部野遺跡、竹沼遺跡、緑埜上郷遺跡、神保富士塚遺跡、多胡蛇黒遺跡、矢田遺跡などで確認されている。

縄文時代　縄文時代の遺跡は鏑川両岸に分布し、遺跡数も増加する。草創期・早期の遺跡には、入野遺跡（16）などがある。前期の遺跡は、神保富士塚遺跡（22）、神保植松遺跡（23）、入野遺跡（16）があり、鏑川右岸上位段丘面から中位段丘面にかけて広がりが見られる。中期の遺跡は上位段丘面から下位段丘面にまで広がる。神保植松遺跡（23）、川内遺跡（18）、椿谷戸遺跡（17）、矢田遺跡（27）がある。後期の遺跡は上位から下位段丘面全体に分布しているが、中期に較べて減少傾向にある。羽田倉Ⅱ遺跡（21）、多胡蛇黒遺跡（25）、椿谷戸遺跡（17）、砂井戸遺跡（7）がある。晩期になると遺跡数は激減し、塚原遺跡、緑埜上郷遺跡（41）がある。

弥生時代　弥生時代の遺跡は、鏑川右岸上・中位段丘面に立地している。長根・神保・多胡段丘面に密に分布する。中期の遺跡は上位から中位段丘面のなだらかな斜面に分布する。羽田倉遺跡、神保植松遺跡（23）、神保富士塚遺跡（22）があり、再葬墓が確認されている。後期にはいると、遺跡数が増加し、集落の定住が進む。羽田倉遺跡、神保植松遺跡（23）、川内遺跡（18）、多比良追部野遺跡（28）、入野遺跡（16）がある。

古墳時代　前期の集落は、鏑川中位段丘から上位段丘にかけ分布が見られる。長根安坪遺跡、折茂東遺跡、神保植松遺跡（23）、多比良追部野遺跡（28）、入野遺跡（16）、竹沼遺跡（38）がある。中期の遺跡は、

折茂東遺跡、緑埜上郷遺跡（41）がある。後期の集落はほぼ全域で見られ、遺跡数も急激に増加する。

初期古墳については、鏑川流域では藤岡市の茶臼山古墳・茶臼山西古墳があげられる。４世紀末葉になると、片山１号墳など旧吉井町地域でも古墳の築造が開始され、５世紀前半に恩行寺裏古墳が造られ、６世紀になると、地域ごとに古墳群が形成され多胡薬師塚古墳（34）などが造られる。鮎川下流域では、５世紀前半の白石稲荷古墳、６世紀前半の七輿山古墳（47）などの前方後円墳を中心に多くの古墳が造られる。６世紀後半に薬師塚古墳、皇子塚古墳（46）があり、終末期古墳として、喜蔵塚古墳（44）、鏡塚古墳（43）がある。烏川流域では、佐野古墳群や倉賀野古墳群などが造られる。５世紀には浅間山古墳（62）、大鶴巻古墳（61）など大型古墳を中心に古墳が造られ、後期まで古墳が造れれる。後期の古墳に、一本杉古墳、漆山古墳（65）がある。

奈良・平安時代　この時期の遺跡は、台地上や微高地などに分布し、矢田遺跡（27）、多比良追辺野遺跡（28）など大規模集落が造られる。水田遺構として、羽田倉遺跡、多比良追辺野遺跡（28）から浅間Ｂ軽石下（1108年）の水田跡が確認されている。また、山間部では多くの窯が造られ、須恵器や瓦の生産が行われていた。下五反田遺跡（32）、滝の前遺跡（35）、金山瓦窯跡（36）などの遺跡がある。郡衙遺跡では、多胡郡衙正倉跡（6）から正倉跡が確認された。寺院跡では、馬庭東遺跡（13）があり、雑木味遺跡（8）などから瓦の出土が確認されている。

中世　村上源氏の流れをくむ奥平氏行が奥平城を築き、上野国甘楽郡司を務めた。氏行以降も、奥平氏が甘楽郡司を代々勤めている。六代奥平定政のとき新田義貞に従い、笠懸野に挙兵したとされる（註１）。

註１吉井町誌編さん委員会 1974『吉井町誌』第２部歴史篇　第１節１源氏と上野国

第１表　周辺遺跡一覧表

1	池南遺跡	中･近世	21	羽田倉Ⅱ遺跡	縄～奈･平	41	緑埜上郷遺跡	旧･縄･古･奈･平	61	大鶴巻古墳	古
2	竹腰遺跡	奈･平	22	神保富士塚遺跡	旧～奈･平	42	緑埜古墳群	古	62	浅間山古墳	古
3	釜ヶ渕遺跡	奈平	23	神保植松遺跡	縄～奈･平	43	鏡塚古墳	古	63	下佐野遺跡	古
4	下池古墳群	古	24	神保下條遺跡	古･奈･平	44	喜蔵塚古墳	古	64	蔵王塚古墳	古
5	多胡碑	奈平	25	多胡蛇黒遺跡	旧･古･奈･平	45	平井地区1号墳	古	65	漆山古墳	古
6	多胡郡衙正倉跡	奈平	26	柳田遺跡	古･奈･平	46	皇子塚古墳	古	66	船橋遺跡	古･奈･平･中
7	砂井戸遺跡	縄･古･奈平	27	矢田遺跡	旧･縄･古･奈･平	47	七輿山古墳	古	67	佐野古墳群	古
8	雑木味遺跡	奈平	28	多比良追辺野遺跡	旧～奈･平	48	伊勢塚古墳	古	68	桜塚古墳	古
9	道六神遺跡	奈平	29	東沢遺跡	古･奈･平	49	白石古墳群	古			
10	東吹上遺跡	縄･奈平	30	多比良平野遺跡	奈･平	50	上落合遺跡	古			
11	富岡遺跡	縄･弥･奈平	31	黒熊中西遺跡	縄･古･奈･平	51	河原1号墳	古			
12	川福遺跡	奈平	32	下五反田遺跡	奈･平　窯跡	52	山名伊勢塚古墳	古			
13	馬庭東遺跡	縄･奈平	33	中ノ原古墳群	古	53	山名原口Ⅰ遺跡1号墳	古			
14	塚原古墳群	古	34	多胡薬師塚古墳	古	54	山名古墳群	古			
15	祝神古墳群	古	35	滝の前遺跡	奈･平　窯跡	55	山名土合古墳群	古			
16	入野遺跡	縄～奈平	36	金山瓦窯跡	奈･平　窯跡	56	山ノ上古墳	古			
17	椿谷戸遺跡	縄･古･奈平	37	富岡遺跡	縄･弥･奈平	57	でいせいじ遺跡	古			
18	川内遺跡	縄～奈平	38	川福遺跡	奈･平	58	山ノ上西古墳	古			
19	折茂Ⅳ遺跡	縄～奈平	39	東平井古墳群	古	59	金井沢碑	古			
20	折茂Ⅲ遺跡	旧･縄･奈平	40	大工ヶ谷遺跡		60	倉賀野万福寺遺跡	古			

旧　旧石器時代
縄　縄文時代
弥　弥生時代
古　古墳時代
奈平　奈良･平安時代
中　中世

高崎市
高崎市
高崎市
牛伏山
城山
サンコーマ2CC
吉井南陽台ゴルフコース
中国化薬工場
吉井町南陽台
吉井町岩崎
吉井町本郷
吉井町下長根
吉井町小暮
吉井町馬場
吉井町矢田
吉井町長根
吉井町吉井川
吉井連動公園
多胡碑
柏田
西松田
八幡前
静岡GC
上信越自動車道
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68

第１図　周辺遺跡地図

第４節　調査の方法

（１）試掘確認調査　調査前の状況は、平成27年の試掘（H26-149）状況で、概ねの遺跡相や密度を想定し調査期間・経費を算出した。また、調査区内に上池館堀が存在する事から、事前に西郭堀の範囲を確認するため試掘トレンチを設定し、確認調査を行った。

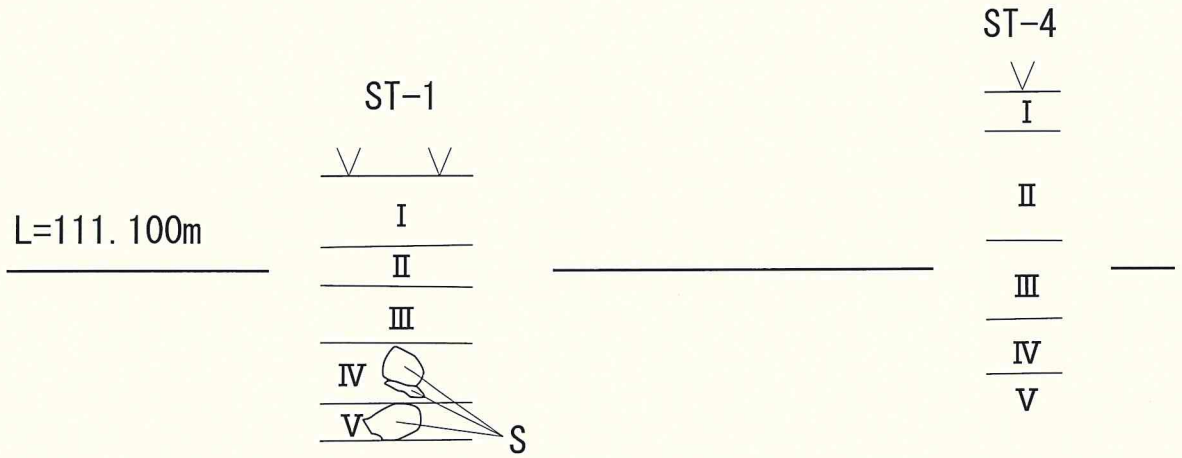
（２）調査区の設定　設計平面図を基に調査担当者が現地で測りだし、調査区を設定した。調査区周りにバリケード・表示等を設置し、安全対策を行った。

（３）調査の方法　発掘調査に伴う排土置き場確保のため調査区を東西３区画にわけ、A区→B区→C区の順に調査を行った。表土掘削は重機を使用し、遺構確認面まで表土掘削を行った。その後、人力による遺構確認作業を経て、切り合い関係を確認した上で各遺構の精査を実施した。精査は、地層断面観察・遺物出土状態から完掘まで段階的に各種記録を作成した。写真は、３５mmのモノクロとリバーサルフィルム・デジタルカメラを使用し調査担当者が撮影を行った。調査終了後は、重機を使用し埋め戻した。

（４）整理作業の方法　平成27年度調査終了後、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を順次実施した。遺構図・エレベーション図は平成27年度池南遺跡写真測量データから平面図・エレベーション図を作成した。遺物図はデジタルトレースし、遺物写真はデジタルカメラによる撮影を行い、編集作業を行った。

第５節　基本層序

調査区は、畑や通路として利用されていた。地表約10～18cmは、耕作で土壌が耕されている状態であった（Ⅰ層）。10～30cmの厚みで暗褐色土層（Ⅱ層）が堆積している。Ⅱ層中から、火山噴出物である浅間Ａ軽石（As-A）の二次堆積が確認できた。Ⅲ層は16～20cmの厚みで黒褐色土が堆積している。Ⅳ層から、鏑川の河岸段丘形成時の礫が確認でき、Ⅴ層になると礫の混入割が増加する。浅間Ａ軽石（As-A）以外の火山噴出物については、確認できなかった。表土掘削は、Ⅲ層上面で行った。



Ⅰ層　耕作土層
Ⅱ層　暗褐色土層　As-A（浅間Ａ軽石）混土
Ⅲ層　黒褐色土層
Ⅳ層　黄褐色土層
Ⅴ層　礫層

第２図　基本層序図

第６節　遺跡の概要

今回の発掘調査では、土坑跡８基、溝跡６条が確認された。１号土坑、２号土坑は古代に該当すると考えられる。また、溝跡覆土中から古代の須恵器羽釜片が出土している。８号土坑から内耳鍋、碾臼が出土している。１・２号溝から内耳鍋、陶器埦が出土している。出土遺物の特徴から、中世から近世にかけて遺跡が営まれたと考えられる。この他、覆土中に諸磯Ｃ式、黒浜式の縄文土器片が出土している。

今回確認された、１・２号溝は上池館跡の南側に位置し、上池館に伴う堀跡と考えられる。２号溝覆土上層から浅間Ａ軽石（As-A）の堆積が確認された。このことから、近世（1783 年）以降も利用されていた事が確認できる。この他の溝跡も走行方向が正方位に乗ることから、上池館もしくは、近世以降の陣屋跡に伴う遺構と考えられる。

（１）旧石器時代

旧石器期の遺構の検出、遺物の出土はなかった。

（２）縄文時代

縄文期の遺構の検出はなかった。黒浜式土器片、諸磯式土器片、石棒、擦り石が出土している。

（３）弥生・古墳時代

弥生・古墳時代の遺構・遺物の出土はなかった。

（４）奈良・平安時代

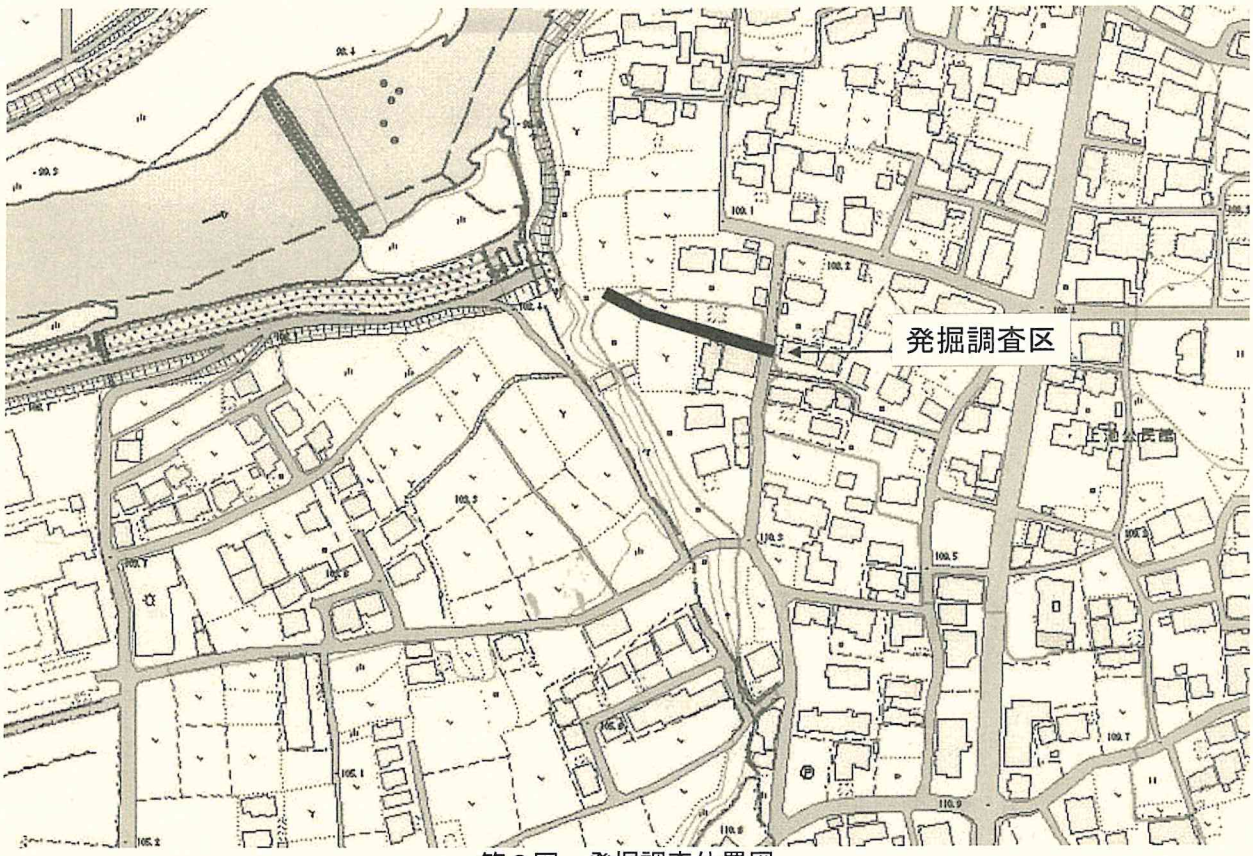
奈良・平安時代の遺構は、１・２号土坑を検出している。

（５）中世

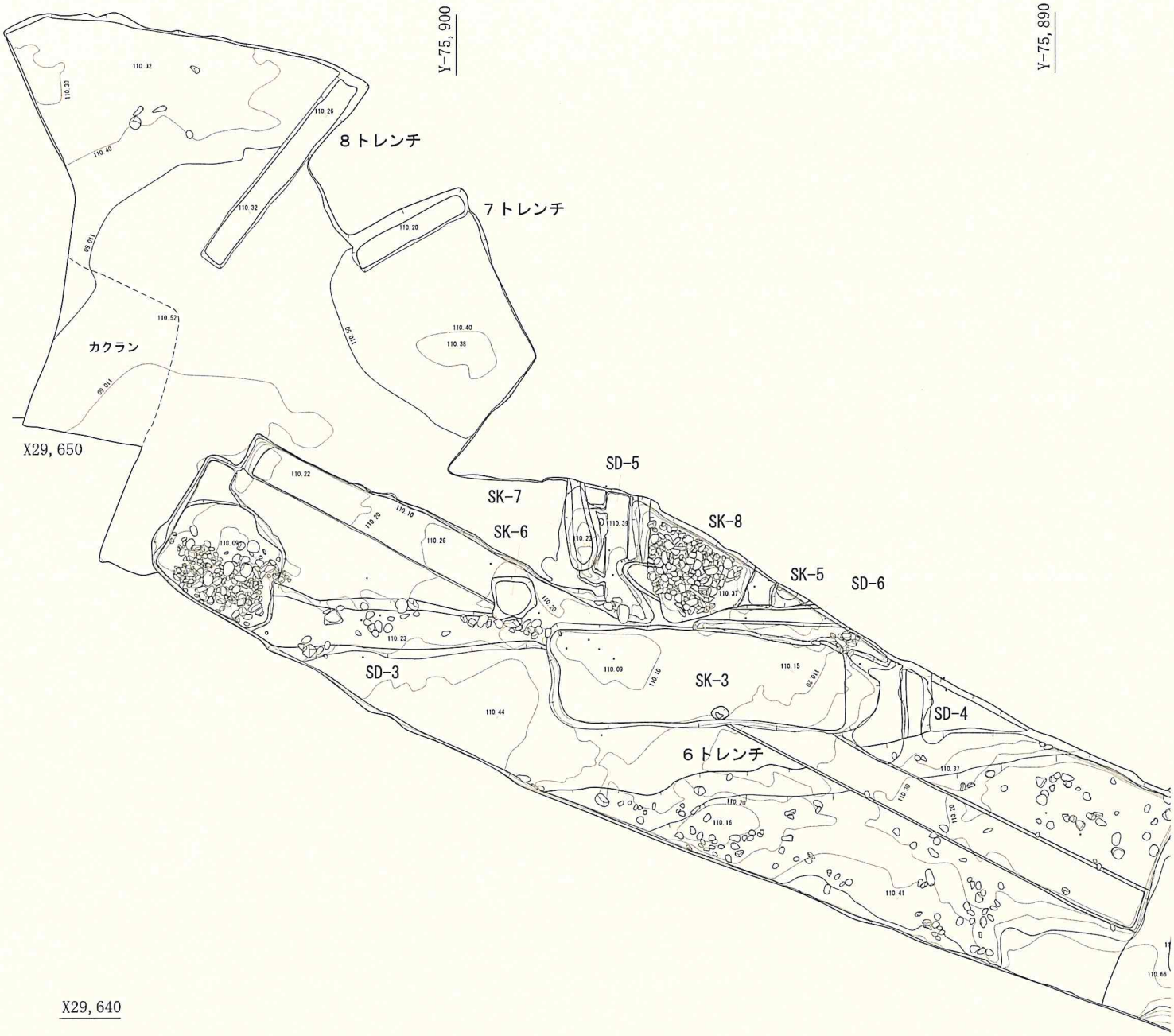
中世の遺構は、１・２号溝を確認している。遺物には、内耳鍋、鉢などが出土している。

（６）近世

近世の遺構は、３～６号溝、３・５号土坑を確認している。陶器皿や灯明皿・内耳鍋が出土している。



第３図　発掘調査位置図


Y-75, 900
Y-75, 890
8トレンチ
7トレンチ
カクラン
X29, 650
SD-5
SK-7
SK-6
SK-8
SK-5
SD-6
SD-3
SK-3
SD-4
6トレンチ
X29, 640